

会 記

巖 俊一氏の死を悼む



故巖 俊一博士. 1980年8月, 京都国際会館で開催された第16回国際昆虫学会議の個体群生態学会バンケットにて.

本学会編集委員, 京都大学教授巖 俊一氏は1981年8月7日未明, 旅行先の北海道知床岬のホテルで心不全のため急逝された. 臨終には令夫人と令嬢が立ち合われた. 享年51才であった. 余りにも突然の死であったため, 御遺族はもちろんのこと御本人も心残りであられたであろうと思うと哀惜の念にたえない.

内田俊郎先生の御退官後, その後任として1977年5月に母校に戻られ, 氏を中心とした昆虫学教室の研究体制も整い, 航空機にたとえれば, まさに離陸後の急上昇という時の死であった. また, 最近, 比叡平に新居を構えられ, 令嬢の弥生子さん(12才)とともにユスラウメ, グミ, リンゴなどの果樹も植え実の成るのを楽しんでおられた時でもあった. 16年前にカナダ国立森林研究所(ヴィクトリア)に留学中, 旅行中の交通事故で長女真理子さん(当時1才)を亡くされ, 御夫妻は九死に一生を得られた. 今回は北の地で御主人の不慮の死という御不幸に直面された令夫人の胸中をお察しするとお慰めの言葉もない.

氏の個体群生態学者としての業績は, 今更多くを語る必要もないほど内外に広く知られている. 特に1960年代後半から約10年間にわたって発表された平均こみあい度の概念に基づいた $m-\bar{m}$ 回帰関係の利用による動物の分布型および死亡過程の解析, サンプルング法の提案などの理論的展開は, 個体群生態学の国際的指導者としての地位を不動のものにした. この手法は国内ばかりでなく, 現在では国際的にごく普通の個体群生態学上の解析法として定着するに至っている.

個体群生態学の基礎を築いた実験個体群における個体の同質性, 生息場所の同質的連続性の仮定に対し, 相変異の研究を通じて密度依存的な個体の異質性の重要性を指摘されたことは, 巖氏のナ

チュラリストとしての鋭い洞察力を示すものである。また、ニジュウヤホシテントウムシの研究によって生息場所の時間・空間的異質性と非連続性、個体群の存続のための移動の役割などを明らかにすることによって野外個体群研究の布石を敷かれた。これらの研究を通じて示された氏の先見性の正しさは、現在の生態学の潮流をみても明らかである。

氏は、個体群生態学会会長としてこの分野の発展に寄与される一方、日本応用動物昆虫学会評議員および賞・奨励金選考委員、日本生態学会全国委員、本学会編集委員などを兼ね、大学における教育研究のみならず広く学会の運営に参加し多大の貢献をされた。また、1971年4月には「集中度指数による新しい生物個体群解析法および昆虫の相変異に関する一連の研究」で日本応用動物昆虫学会賞も受賞された。これまでに発表された学術論文は55編、公刊図書への執筆は14編、海外の大学における講演5件、学会発表は54件の多きに及んでいる。

氏は、卓越した批判力を天分として持っておられた。そのため決して時流に乗ることなく自らの考えにもとづいて納得のいくまで事象を論理的につきつめるタイプの研究者であった。氏は、また、その円満な人格と包容力によって多くの人達から無条件の尊敬を集めておられた。リベラリストであった氏は、創造的研究はいたずらの研究によってその芽が育つと信じておられた。したがって後進の指導においても本人の主体性を尊重し、決して自分の意見を押しつけることはされなかった。このような研究生活の態度は、家庭内でも変らなかった由である。最近、花木の栽培にも手を広げておられた由で、その際にも決して苗を買わず、全て実生から育成するとともに、虫に食われても農薬は全く使われなかったという令夫人のお話にも同氏の面目躍如たるものがある。

生前親交を厚くしていただいた私にとっては、かけがえのない友人を失った悲しみは筆舌につくすべがない。ここに会員の皆様と共に故人の偉業を偲ぶとともに、謹んで氏の御冥福を祈りたい。

(桐谷 圭治)

巖 俊一氏略歴

- 1929年10月13日 芦屋市に生れる。
- 1953年3月 京都大学農学部農林生物学科卒業。
- 1955年3月 京都大学大学院農学研究科修士課程農林生物学専攻修了。
- 1959年3月 同大学院博士課程農林生物学専攻退学。
- 1959年4月 京都大学農学部助手。
- 1961年6月 京都大学農学博士。
- 1964年12月～66年12月 カナダ国立森林研究所（ヴィクトリア）留学。
- 1971年4月 日本応用動物昆虫学会賞授賞。
- 1973年1月 名古屋大学農学部助教授。
- 1977年5月 京都大学農学部教授。
- 1981年8月7日 逝去。享年51才。

御遺族住所

巖 靖子様 〒520滋賀県大津市比叡平1丁目21-23